

[6] 反省と今後の課題

小学部では、身近な人と意欲をもって楽しんでコミュニケーションをする子どもたちの育成をめざしてきた。研究の1年次であった昨年度は、コミュニケーションに関する実態調査を、2年次の今年度は「授業づくり」を中心に取り組んできた。

単元や題材の設定にあたっては、どのような題材がコミュニケーションの指導に有効であるかを検討し実践してきた。生活單元における「まがり角」や遊びの時間の「おいかけっこ」など、それぞれの題材においてはコミュニケーションの効果的な取り組みがなされた。しかし、個々の題材に関連性を持たせ、コミュニケーションの指導を系統的に発展させていくために、単元をどのように有機的に配置していくかについては、あまり研究が深められなかった。

指導者の関わり方としては、児童のコミュニケーションの意欲を高めるために、指導者の待ちの姿勢が大切であることを確認し、より良い聞き手になるように努めてきた。その結果、なんでも、聞いてもらえるという安心感から、促されて話すだけではなく、自分から自発的に話しかけてくることが増えてきた。ただ、集団で指導していく場面では指導者の待ちの姿勢にも限界があるので、補助的指導者と協力しながらどう対応していくかが今後の課題である。

個を生かす指導の工夫においては、個別の目標の設定をし、個別指導の時間確保に努めてきた。また、個別の目標が生かせるように合同の学習ではグループ編成を工夫し、クラスの学習では同一教材複数課題を取り入れ、個に応じた援助をおこなってきた。その結果、個々の子どもたちにあった課題と取り組む機会が多くなり、児童の力を伸ばすことができた。今後はさらに、個別の指導でつけた力をどう集団の中で生かしていくかの研究を進めていきたい。

取り組みにあたって留意した点は、遊びの要素を大切にしたことである。遊びの時間やなかよしタイムだけでなく生活單元学習、合同音楽、合同体育などにも遊びの要素を取り入れるようにした。特に、遊びの時間では、自由な雰囲気の中でそれぞれの児童が好きな遊びに集中し、みため・つもりの活動をしながら自己内対話を活発にし、指導者や友だちと楽しくコミュニケーションできた。さらに、低学年と高学年のふれあいを増やしたり、いろいろな遊びの場でつけた力を他校との交流の時に生かしたりできるように配慮することによって、クラスや学部の先生や子ども同士の間など身近な人へのコミュニケーションが活発になった。今後は、さらにコミュニケーションの範囲を他学部の先生や生徒たちへと広げていくようにしたい。また、クラスの朝の会や生活單元学習における決まったやりとりだけでなく、偶発的に起きたいろいろな場面でのコミュニケーションもうまくできるように、意図した取り組みをしていきたい。

本年度の取り組みの結果、小学部の子どもたちが全員、数値で表せ目に見えるほどの変容を示している訳ではないが、それぞれの子どもたちが発達に応じて実践例のところで述べてきたような力をつけつつあるように思われる。

まだまだ不十分なことの多い実践ではあったが、今年度の成果を継承しつつ、ここで述べたようなことを来年度の課題として取り組んでいきたい。

※資料 インリアル (INREAL) について

インリアルとは1974年、米国コロラド大学で開発された INREAL (Inter Reactive Learning and Communication) は、子どもと大人が相互 (Inter) に、より良く反応 (Reactive) しあうことを通して、子どもの学習や、コミュニケーション能力を向上させることを目指すものである。

したがって、子どものコミュニケーションの問題に目を向けるだけでなく、かかわる大人のコミュニケーション・センシティブティをも問うものである。つまり、大人が、どのようなかかわりや言葉かけをしていくことが、ひいては、子どものコミュニケーション能力を育てることにつながるのかを、VTRを用いて検討を加えていこうというものである。

小学部では、インリアルの基本理念を学ぶに留め、VTRを用いた検討は行っていない。なお、以下のようなインリアルの言語心理学的技法も参考にしてる。

ミラリング	子どもの行動そのままねます。子どもに自分の行為が相手に与える力に気づかせるのに有効です。
モニタリング	子どもの音声をそのままねます。ミラリングと同様のねらいがあります。
	子どものことばをそのままねます。子どものことばが大人に伝わっていることを伝えます。
パラレルトーク	子どもの行動や気持ちを言語化します。大人が子どものことに関心があることや、ことばの意味を知らせます。
セルフトーク	大人の行動や気持ちを言語化します。大人が何をしているのか、どんな気持ちかを伝えます。
リフレクティング	子どもの誤った発音やことばの使い方を正しく聞かせます。訂正するのではなく、正しいことばを聞かせます。
エクスパンション	子どもの言ったことばの意味や文法を広げて返します。一語文には、二語文で返すことで意味と文法を広げます。
モデリング	子どもの話題に沿いながら、会話のモデルを示します。

(本校 平成4年度 研究集録 注2)